

## 開山慧日聖光国師遺誠

そ がくさう ひん

ま

のぞ

夫れ学道の士は、先ず須く身口意を慎護り、貪瞋癡を屏除くべし。

名を視ること浮雲に等しく、利を棄つること糞土の如く、言を出すや、詐偽虚妄を祓わんことを要し、行を立つるや、隱実端潔を凶らんことを貴ぶ。

お

たとい世間種々の違順の境界に逢うとも、一々夢幻空華の中に収在め、

せんそう

然る後、己事未だ明らかならざるを以て、常に自ら勉励して、剪爪の暇を容れず、志力を奮起し、精進上に精進を加え、勇猛更に勇猛を添えて、朝參暮請、行究坐究、一旦漆桶連底に脱し去って、始めて本来の風光を見ん。是れ解脱の活衲僧と謂わんや。

### (和訳)

禅の道を学ぼうという人は、まず身体、言葉、こころを慎むことを継続し、むさぼり、いかり、愚かさを取り除きなさい。

世の名声を見ることは、空の浮き雲と同じように（むなしいものと思い）、富を捨てる事は糞のように（嫌い）し、言葉を発するときは、偽りや妄想を除き、何かを行うときは、穩やかに、はつきりと、きっぱりおこなうようにしようとすることを、尊ぶ。

たとえ世間のもるもるの順境、逆境に遭っても、それをゆめまぼろしのごとくだと思い、そうやってその後、「本来の自己とは何か」ということが明らかでないことを思い、いつも（ひとに命ぜられるのではなく）おのれの意志で努め励み、爪を切るひまも惜しみ、志の力を奮い起こし、努力の上にも努力を加え、勇敢の上にも勇敢に、朝も夕も参禅し、行いも坐禅も極め尽くせば、ある時、桶の底が抜けるように、（妄想の世界を）脱却して、始めて（この世界の）ほんとうの姿を見るだろう。これを（本当に）解脱した生きた禅僧と言うのではないだろうか。